

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所にて測定。		
1 施工箇所毎		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8	道 路 編	1 道 路 改 良	2	1	遮音壁支柱製作工	部 材	± 3 ... φ ≤ 10 ± 4 ... φ > 10
						材	
8	道 路 編	1 道 路 改 良	7		補強土壁工 (補強土 (テールアルメ) 壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基 準 高 ▽	± 50
						高 度 h	h < 3 m
						高 度 h	h ≥ 3 m
						鉛 直 度 △	± 0.03 h かつ ± 300 以内
					控 え 長 さ	設計値以上	
					延 長 L	-200	
8	道 路 編	1 道 路 改 良	6		場所打函渠工	基 準 高 ▽	± 30
						厚 さ t ₁ ~ t ₄	-20
						幅 (内法) w	-30
						高 さ h	± 30
						延 長 L	-50
						延 長 L	-100
8	道 路 編	1 道 路 改 良	4		落石防止網工	幅 w	-200
						延 長 L	-200

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8	1	9	6		防雪柵工	高さ h	±30
						延長 L	-200
						基礎 幅 w ₁ , w ₂ 高さ h	-30 -30
8	1	9	7		雪崩予防柵工	高さ h	±30
						延長 L	-200
						基礎 幅 w ₁ , w ₂ 高さ h アンカー長さ ℓ 埋込み ℓ	-30 -30 -10% -5%
8	1	10	4		遮音壁基礎工	幅 w	-30
						高さ h	-30
						延長 L	-200
8	1	10	5		遮音壁本体工	間隔 w ₁ , w ₂	±15
						支柱 ずれ a ねじれ b-c 倒れ d	10 5 h×0.5%
						高さ h 延長 L	+30, -20 -200

測定基準	測定箇所	摘要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎 全数		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 5 スパンにつき 1 箇所 1 施工箇所毎		

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は片側延長40m毎に1箇所割合で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1箇所測定。 ※両端部2点で測定する。</p>	<p>工事規模の考え方は、1層あたりの施工面積が2000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個以上の割合で規格値を満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
<p>幅は、片側延長80m毎に1箇所の割合で測定。厚さは、片側延長200m毎に1箇所コア一を採取して測定。</p>		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		
							個々の測定値(X)	10個の測定値の平均値(X ₁₀)	
8	2	3			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	±50	—	
						厚さ	t < 15cm	-30	-10
							t ≥ 15cm	-45	-15
				幅	-100	—			
8	2	3			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚さ	-9	-3	
						幅	-25	—	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8	2	4	9		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 ∇	±30
						延 長 L	-200
8	2	6	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	±20
						各 部 の 厚 さ	±20
						各 部 の 長 さ	±30
						各 部 の 長 さ	±20
						厚 さ	—
					(アンカーボルト)	中 心 の ず れ	±20
						ア ン カ ー 長	±20
8	2	8	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 w_1, w_2	-30
						高 さ h	-30
8	2	8	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上

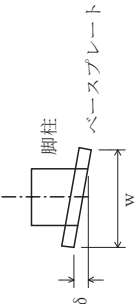
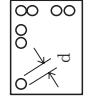
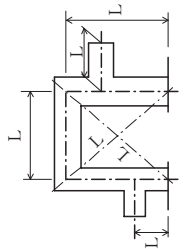
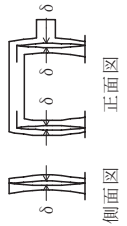
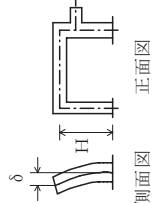
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1箇所/1施工箇所		
1箇所/1踏掛版		
1箇所/1踏掛版		
1箇所/1踏掛版		
全数		
全数		
全数		
基礎一基毎		
1箇所/1基		

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
接続部間毎に1箇所 接続部間毎で全数		
1箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合		
1箇所/1施工箇所		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 道路編	2 舗装	11 道路附属施設工	5	1	ケーブル配管工 (ハンドホール)	埋設深 t	0~+50
						延長 L	-200
8 道路編	2 舗装	11 道路附属施設工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基準高 ▽	±30
						※厚さ t ₁ ~t ₅	-20
						※幅 w ₁ , w ₂	-30
						※高さ h ₁ , h ₂	-30
8 道路編	2 舗装	11 道路附属施設工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30
						高さ h	-30

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	測 定 要 求
各脚柱、ベースプレート測定。		
全数を測定。		
全数を測定。		
両端部及び片持ばり部を測定。		
各主構の各格点を測定。		
各柱及び片持ばり部を測定。 H：高さ (m)		

編 号	章 節	条 目	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
8 道路編	3 橋梁下部	3 工場製作工	鋼製橋脚製作工	脚柱とベースプレートとの鉛直度 δ (mm)	w/500		
				部 材	ベースプレート	孔の位置	± 2
				仮 組 立 時	孔の径 d	0 ~ 5	
				柱の中心間隔、対角長 L (m)	$\pm 5 \dots$ $L \leq 10m$ $\pm 10 \dots$ $10 < L \leq 20m$ $\pm (10 + (L - 20)/10) \dots$ $20m < L$		
				はりのキヤンバー及び柱の曲がり δ (mm)	L/1,000		
				柱の鉛直度 δ (mm)	10...H ≤ 10 H...H > 10		

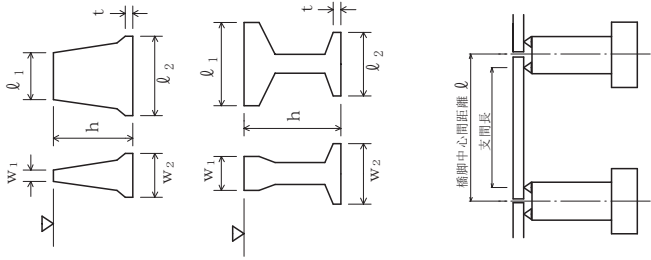
単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値
8	道路編	3	橋梁下部		橋台躯体工	基準高 ∇	± 20
						厚さ t	-20
						天端幅 w_1 (橋軸方向)	-10
						天端幅 w_2 (橋軸方向)	-10
						敷幅 w_3 (橋軸方向)	-50
						高さ h_1	-50
						胸壁の高さ h_2	-30
						天端長 l_1	-50
						敷長 l_2	-50
						胸壁間距離 ϕ	± 30
支間長及び中心線の変位	± 50						
支承部	計画高	+10~-20					
アンカー	平面位置	± 20					
ボルトの箱抜き規格値	アンカー孔の鉛直度	1/50以下					

単位：mm

編	8	道路編				
章	3	橋梁下部				
節	5	R C 橋脚工				
条	9					
枝番	1	橋脚躯体工 (張出式)				
測定項目	基準高 ∇	規格値	± 20			
	厚さ t		-20			
	天端幅 w_1 (橋軸方向)		-20			
	敷幅 w_2 (橋軸方向)		-50			
	高さ h		-50			
	天端長 ℓ_1		-50			
	敷長 ℓ_2		-50			
	橋脚中心間距離 ℓ		± 30			
	支間長及び 中心線の変位		± 50			
	支承部アンカーボルトの箱抜き規格値					
	計画高		$+10 \sim -20$			
	平面位置		± 20			
	アンカーボルト孔の鉛直度		1/50 以下			

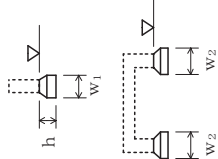
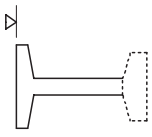
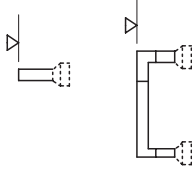
測定基準	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。
測定箇所	
摘要	

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		

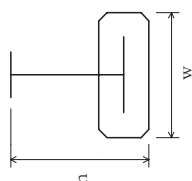
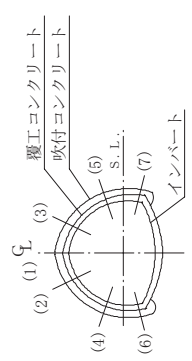
編 号	章 節	条 目	枝 番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道路編	3 橋梁下部	5 R C 橋脚工	4	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基準高 ∇	± 20
					厚 さ t	-20
					天 端 幅 w_1	-20
					敷 幅 w_2	-20
					高 さ h	-50
					長 さ l	-20
					橋脚中心間距離 l	± 30
支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50					
8 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	1	橋脚フーチャング工 (I型・T型)	基準高 ∇	± 20
					幅 w (橋軸方向)	-50
					高 さ h	-50
					長 さ l	-50

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合		

編 号	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	9	2	橋脚ブーチング工 (門型)	基準高 ∇	±20
						幅 w_1, w_2	-50
						高さ h	-50
8 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基準高 ∇	±20
						橋脚中心間距離 ℓ	±30
						支間長及び中心線の変位	±50
8 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基準高 ∇	±20
						橋脚中心間距離 ℓ	±30
						支間長及び中心線の変位	±50
8 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	5 ※±5

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
図面の寸法表示箇所での測定。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレスト シング後測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3箇所とする。 ℓ ：スパン長		
施工延長40m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測 定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技 術基準(構造編)にいう地盤等級A又 はBに該当する地盤とする。		
施工延長40m毎に断面全数検測。		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8	道路編	鋼橋上部	9		橋梁用高欄製作工	部材	$\pm 3 \dots \dots$ $\ell \leq 10$
						材	$\pm 4 \dots \dots$ $\ell > 10$
8	道路編	コンクリート橋上部	2		プレビーム桁製作工 (現場)	幅	± 5
						高さ	$+10$ -5
8	道路編	トンネル(NATM)	3		吹付工	桁長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$
						スパン長	$\pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
8	道路編	トンネル(NATM)	4		ロックボルト工	横方向最大タワミ	0.8ℓ
						吹付け厚さ	設計吹付け厚 以上。ただし、 良好な岩盤で 施工端部、突出 部等の特異な 箇所は設計吹 付け厚の1/3 以上を確保 するものとする。
8	道路編	トンネル(NATM)	4		ロックボルト工	位置間隔	—
						角度	—
						削孔深さ	—
						孔径	—
						突出量	プレート下面 から10cm以内

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>(1) 幅は、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さは、コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に示す各点で測定。 (3) コンクリート打設後、インバートコンクリートについて1打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。</p>		
<p>図面の主要寸法表示箇所を測定。</p>		

編 号	章 節	枝 番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道路編	6 トンネル (N A T M)	4	インバート本体工	幅 w (全幅)	-50
				厚さ t	設計値以上
				延 長 L	-
8 道路編	6 トンネル (N A T M)	4	坑門本体工	基 準 高 ∇	± 50
				幅 w_1, w_2	-30
				高 さ h	-50
				延 長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1箇所を測定。 なお、高さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。</p>		
<p>(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に示す各点①～⑩で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点①～⑩の巻厚測定を行う。 ただし、上部半断面先進工法の場合④～⑦については上半のセントルの間隔程度でよい。 (ハ) セン孔による巻厚の測定は図の①は40mに1箇所、②～③は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上のせん孔による測定を行う。 ただし、漏水の多い場合などで上記によることが好ましくない場合は、監督職員の指示により間隔を上げることができる。</p>		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 道路編	6 トンネル (N A T M)	8 坑門工	5		明り巻工	基準高 (拱頂)	±50
						幅 w (全幅)	-50
						高さ h (内法)	-50
						厚さ t	-20
						延長 L	—
8 道路編	7 トンネル (矢板)	5 覆工	3		覆工コンクリート工	基準高 (拱頂)	±50
						幅 w (全幅)	-70
						高さ h (内法)	-70
						厚さ t	-50
						延長 L	—

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>(1) 基準高、幅、高さは、施工 40mにつき 1 箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の中間と終点を図に示す各点(1)～(10)で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点(1)～(10)の巻厚測定を行う。 ただし、上部半断面先進工法の場合(4)～(7)については上半のセントルの間隔程度でよい。 (ハ) センレによる巻厚の測定は図の(1)は 40mに 1 箇所、(2)～(3)は 100mに 1 箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が 100m以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上のせんれによる測定を行う。 ただし、漏水の多い場合などで上記によることが好ましくない場合は、監督員の指示により間隔を拡げることができる。</p>		

編 号	章 節	条 目	枝 番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8	7	トンネル（矢板）	4	インバート本体工	幅 w（全幅）	-50
					厚さ t ₁ , t ₂	設計値以上
					延 長 L	—

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		
両端・施工継手箇所の底板・側壁・頂版にて測定。		
両端・施工継手箇所の「四隅」にて測定。		

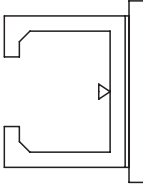
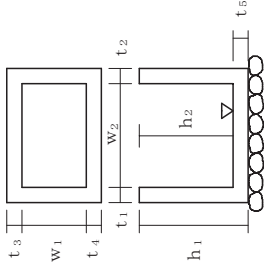
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 道路編	12 共同溝	5 現場打構築工	2		現場打躯体工	基準高	±30
						厚さ	-20
						内空幅	-30
						内空高	±30
						ブロック長	-50
8 道路編	12 共同溝	5 現場打構築工	4		カラー継手工	厚さ	-20
						幅	-20
						長さ	-20
8 道路編	12 共同溝	5 現場打構築工	5	1	防水工 (防水)	幅	設計値以上
8 道路編	12 共同溝	5 現場打構築工	5	2	防水工 (防水保護工)	厚さ	設計値以上

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
図面の寸法表示箇所での測定。		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。</p> <p>延長：1 施工箇所毎</p>		
<p>接続部 (地上機器部) 間毎に 1 箇所。</p> <p>接続部 (地上機器部) 間毎で全数。 【管路センターで測定】</p>		

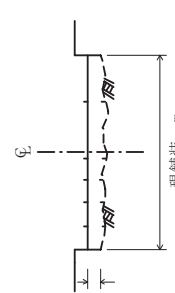
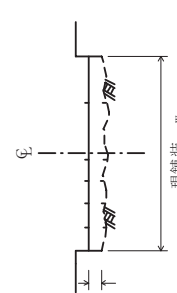
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 道路編	12 共同溝	5 現場打構築工	5	3	防水工 (防水壁)	高さ h	-20
						幅 w	±50
						厚さ t	-20
8 道路編	12 共同溝	6 プレキャスト構築工	2		プレキャスト躯体工	基準高 ▽	±30
						延長 L	-200
8 道路編	13 電線共同溝	5 電線共同溝工	2		管路工 (管路部)	埋設深 t	0～+50
						延長 L	-200

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
接続部（地上機器部）間毎に1箇所。		
1箇所毎 ※は現場打部分のある場合		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8	道路編	13	電線共同溝	5	電線共同溝工	基準高▽	±30
						種	プレキャストボックス工 (特殊部)
8	道路編	13	電線共同溝	6	付帯設備工	基準高▽	±30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高さ h_1, h_2	-30
					ハンドホール工		

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
<p>厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。</p> <p>幅は、延長80m毎に1箇所を割とし、延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。</p> <p>断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。</p>	 <p>現舗装 w</p> <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は延長80m毎に1箇所を割で測定。厚さは、各車線200m毎に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。</p>	 <p>現舗装 w</p>	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X ₁₀)	
8	道路編	15	道路維持	4	舗装工	切削オーバーレイ工	厚さ t	-9	
							幅 w	-25	
							延長 L	-100	
							平坦性	—	3mプロファイル 下 (σ)2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下
8	道路編	15	道路維持	4	舗装工	路上再生工	厚さ t	-30	
							幅 w	-50	
							延長 L	-100	
							路盤工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	測 定 要 求
鋼げた等	<p>I型鋼げた トラス弦材</p>	
主げた・主構		
床組など		トラス・アーチ等
主げた		各支点及び各支間中央付近を測定。

編	章	節	条	枝番	種	工	種	規格値
8	17	3	4		桁補強材製作工			$\pm 2 \dots\dots$ $w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots\dots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots\dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \dots 2.0 < w$
								フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)
								フランジの直角度 δ (mm)
								$w / 200$
								圧縮材の曲がり δ (mm)
								$\ell / 1000$